

真宗大谷派宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讃事業学術研究助成
研究成果報告書

- ・研究事業名 「親鸞の『観無量寿経』観一『観無量寿経集註』を通して一」（共同研究）
- ・研究体制 研究代表者・鶴見晃（同朋大学教授）
共同研究者・青木玲（九州大谷短期大学准教授）
- ・研究期間 2022年4月～2025年3月
- ・研究スケジュール
1年目 翻刻資料検討および作成
2年目 翻刻資料作成、学術雑誌への発表（『同朋仏教』第59号、2023年7月発行）
3年目 翻刻資料作成、学術雑誌への発表（『九州大谷研究紀要』第51号、2025年3月発行）

- ・研究の目的、内容

『観無量寿経』（以下、『観経』）「序分」に説かれる「是旃陀羅」の語は、水平社創立以来、その差別性が指摘されてきた。真宗大谷派は、2021年6月、宗議会・参議会において「「是旃陀羅」問題に関する決議」（『真宗』2021年8月号）を出し、その後、『是旃陀羅問題について』（2023年）、『御同朋を生きる』（2024年）を発行するなど、課題共有のために様々な取り組みを進めている。本研究はこのような状況を踏まえつつ、議論の前提となる親鸞の『観経』観の基礎的な研究を行うことを目的とした。

『観無量寿経註』（以下、『観経註』）は、親鸞が『観経』に善導の『観経四帖疏』を中心に詳細に註釈を書き入れたものである。親鸞が著したもののなかで、あまり注目されることはないが、『観経』をどのように読もうとしたのかをうかがうことのできる重要な書物である。

『観経註』について、これまでいくつかの翻刻されたテキストが出版されている。

- ・『定本親鸞聖人全集』第7巻（法蔵館、1969年）

『観経註』表面・『阿弥陀経註』表面・『観経註』裏面・『阿弥陀経註』裏面の順に翻刻。題号・訳者名・経文が書かれ、それに対する註釈文が示されている。

- ・北塔光昇編『親鸞聖人 観無量寿経集註 上』（永田文昌堂、2010年）

題号・訳者名・経文が書かれ、それに対する註釈文と、註釈文がどの部分にあるかが示されている。『観経』「序分」の「云何当見 阿弥陀仏 極楽世界」（『真宗聖典』〔第二版〕104頁）までを収録。

- ・『浄土真宗聖典全書』第3巻（本願寺出版、2017年）

『観経註』表面・『観経註』裏面・『阿弥陀経註』表面・『阿弥陀経註』裏面の順に翻刻。題号・訳者名・経文が書かれ、それに対する註釈文と、註釈文がどの部分にあるかが示されている。裏面の註釈文は表面の経文と対応するため、校注に表面の経文が記されている。また、付録として、表面の経文・註釈文と裏面の註釈文の対応を示す表が掲載されている。

これらの翻刻本は、註釈文が書き込まれる部分や、表面と裏面の対応が分かるように、それぞれ工夫されている。本研究では、これまでの翻刻本を踏まえて、経文と註釈文、その位置をより容易に対照できるようにした。

- ・研究成果 『『観無量寿経註』の基礎的研究』の発行（2025年7月1日、150部）

- ・今後の課題

『阿弥陀経註』についても翻刻資料を作成したい。

以上